

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 くさぶえ )

事業所番号	0671500288		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井		
所在地	〒993-0061 山形県長井市寺泉3081-21		
自己評価作成日	令和2年9月10日	開設年月日	平成15年10月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内や近隣の祭り、催し物などやその方にとって馴染みの場所に出掛ける機会を多く持ち、畑での収穫やその収穫物での調理を通して季節を感じ、その方の生活スタイルに合ったその人らしい暮らしが送られるように配慮しています。法人に2つのグループホームがある利点を活かし、お互いに訪問し合う事で、ご利用者や職員の交流を図り、閉鎖的にならないような工夫をしています。又、職員を対象とした所内研修や外部研修への参加を奨励するなど、最新の認知症介護について学びを深める機会を持ち、介護現場に活かして行くよう努力を重ねています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和2年10月22日	評価結果決定日	令和2年11月10日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活が出来るように全員で理念を作り、ホーム内に提示している。又、職員のネームの裏に携帯することで、常に意識づけをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の文化祭、お祭りに参加し、地区の方々との交流している。地区のボランティアサークルの方々にも定期的に訪問して頂いている。又、季節ごとの花見には、ボランティアとして協力を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症についての話をさせて頂いている。又、ミニ学習会を取り入れて認知症の学習をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。入居や退居の状況、ホームでの生活を報告している。委員の方からは地区の情報を聞く等、双方向的な話し合いを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーにも市の職員の方が参加され、長井市の介護保険状況について説明を受けている。長井市認知症地域支援推進人材・チーム作りの研修に参加し、学習している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、身体拘束について話し合いを行っている。法人内での学習会に参加し、スタッフ会議で伝達し実践している。利用者の思いを受け止め、関わりや見守りで外出を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人にて職員を対象に研修会を設け、高齢者虐待について理解を深めている。所属長を中心に職場の環境や職員個々の把握に努めている。職員間で声がけしてストレスを溜め込まないようにしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議やミニ学習会で高齢者虐待防止や権利擁護について理解を深めている。又、個々の出来ることを見極め、自立支援に繋げている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度、わかりやすく説明するように心がけている。入院、退居になった場合、御家族に納得出来るように十分に説明を行い、いつでも声をかけて頂けるように伝えている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で3年に1回アンケートを実施している。頂いた意見はスタッフ間で、分析、検討を行い1年後に評価し、今後の取組にいかすようにしている。御家族の訪問時や玄関に意見箱を設置し意見をだしやすいようにしている。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議やミーティングノート等でお互いの意見を交換している。必要時には、管理運営会議にも反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、自己評価表に記入し、上司と面談を行っている。就業規則や給与水準の変更があれば説明会を開いたり、回覧で配布し、全職員に理解と同意を得ている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人において教育委員会の学習会やGH独自の学習会に参加している。GH協議会の交換実習や研修会に参加し、情報共有やスキルアップに努めている。今年度はコロナ禍の中、外部研修は参加していない。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の交換実習、認知症グループホーム大会等の研修や長井市主催の研修に参加し他事業所との意見交換や交流する機会となっている。又、法人の他ユニット他事業所との合同の研修を設け、学びに活かしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にホームに見学に来て頂き、雰囲気や内装を見たり、職員が自宅を訪問し、ご本人と直接話しをし、心身の状態や思い要望等を受け止め良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や見学時に御家族がわからないところ等話しやすいように配慮している。御家族の思いや要望を受け止め今後の方向性についても一緒に考え信頼が得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、御家族の意見をふまえて管理者、医療連携NS総合ケアセンターで必要としている支援を見極めて適切なケアが出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、掃除、洗濯、買い物等、入居者と職員が一緒になって行っている。色々な場面で経験や知恵などを教えて頂いている。ホームでの生活や行事などを共に過ごす事で喜怒哀楽を分かち合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問時、電話連絡の際、ご本人の状況をお伝えしている。ホームでは敬老芋煮会、クリスマス会で御家族と共に調理し、実際の状況を見て頂き、理解と協力を頂いている。御家族の願いなどをお聞きしながら本人を支えていくよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問の際は、気軽に訪問して頂けるように会話しやすい場所の提供やお茶をお出ししたり配慮している。「特別な日」を実施し、ご本人が行きたい所へ行ったり、ドライブや買い物の際等、馴染みの場所へ出かけ関係が継続できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で過ごせるように食席を配慮したり、ソファでゆったりと会話や洗濯物たたみが出来るようにしている。手工芸を行う際も入居者同士が話をしながら行える環境を整え、一人ひとりが孤立しないように職員は仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居されてもお見舞いに行ったり、必要時にはいつでも相談やお話を聞き、気持ちに添った支援を行うように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して普段の何気ない会話や行動等、職員間で情報交換し思いを汲み取れるよう努めている。また、御家族の意向や要望もお聞きして本人の思いに添えられるように努めている。状態の変化があれば、都度見直し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族の協力を得て生活歴を教えて頂きながら、生活の把握に努めている。ご本人から直接お聞きしたり、普段の何気ない会話の中や、日々のアクティビティの様子を見ながら情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康、精神状況、清潔面等観察し記録している。一人ひとりの生活パターンからより良い生活が送れるように配慮している。各自の特技や趣味を通して、関わる時間を多く設けて力の発揮が出来るように状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用いて、その人にとって今何が必要かをご本人や御家族の意向を確認しながら、介護計画を作成している。状況や状態の変化に応じたカンファレンスを行っている。理学療法士より個別機能訓練計画書を作成してもらいリハビリを取り入れている。3ヶ月後にモニタリングを行い評価や見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に加え、本人の言動や表情等も記録に残し、職員間で共有しケアに活かしている。また、介護計画にも反映させ、見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭、お祭り、サイトウ焼等、季節の行事に参加し地域の方々との交流に努めている。地域のボランティアサークルの方が定期的に訪問され交流をもっている。また、ボランティアの協力を得て、季節の花見にも出掛けている。今年度はコロナ禍の状況にあり、外出や交流を控えている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時連絡表に本人の状態を詳細に記入し、医療連携看護師のアドバイスを頂きながら、かかりつけ医との情報共有を行っている。家族との連絡を密にし、スムーズに安心して受診出来るようサポートしている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時は、電話連絡をし、訪問時には利用者の方の体調や精神面での変化を報告、相談している。医療連携看護師のアドバイスを受け、必要な医療的ケアが受けられるよう、支援している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、速やかな情報提供に努めている。入院治療が必要となった場合は、御家族や病院関係者との連携を図り、情報共有を密に行っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に近いと思われる利用者に対し、職員間で話し合いを持ち、医療連携看護師を交えて御家族への状態報告や今後の方向性についての話し合いを行い、医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月様々な状況を想定した訓練の日を定め実践やシミュレーションを行っている。反省点や改善点を生かし、マニュアルの見直しを行い職員間での周知徹底している。又、マニュアルは決まった所に起き、スムーズに緊急時の対応が出来るようにしている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回法人で避難訓練を行い、近隣職員や推進委員の方にも参加して頂いている。消防署員の助言や指導を受け、協力体制を整備している。災害等が起きた際は全職員に災害メールが送信されるようになっている。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として教えて頂く姿勢を重んじ、言葉遣いに留意している。又、声の掛け方や大きさ、場所等に配慮している。又、個人情報の取り扱いに関しても管理を徹底している。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人の思いや希望が表現出来るように傾聴している。自己決定出来るように、個々に合わせた場面作りを心掛け、尊重した関わりに努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のお気持ちを尊重し、その人に合った柔軟で個別性のある支援を行っている。本人の生活に合わせ、「笑顔あふれる我が家」を理念とし、その人らしく生き生きとして生活出来る空間作りを行っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所に個々の洗面道具を準備している。鏡を見ながらゆっくりと整容や身だしなみを整える事が出来ている。入浴後の衣類は職員と一緒に選び、好きな服を着て頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや、季節の食材、郷土料理を取り入れた献立作成を行っている。誕生日の日には、その方の好みをお聞きし、特別な献立を作成し喜んでいただけるように工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今年7月よりミールサービスを利用している。食事の形態については一人ひとりの状態に応じて提供している。必要時にはチェック表を用いて摂取量を計測し、栄養・水分が取れるように本人の好む水分やゼリー等を提供している。また、同法人言語聴覚士や看護師に確認していただきアドバイスを頂いている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた声かけや介助にて口腔ケアを行っている。週に2回、入れ歯洗浄剤を使用し、義歯の清潔保持に努めている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンを掴み、トイレで排出来るように努めている。自尊心に配慮しながら、声かけや誘導を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や乳製品、水分を適度に摂取出来るように提供している。テレビ体操等、体を動かす機会を設け、雨天時や冬季間は運動量が低下しないように、個々に合わせた運動やレクリエーションを行い、体を動かす時間を増やし、便秘予防に努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の体調や希望を配慮しながら声かけを行い入浴をおこなっている。本人が気乗りしない場合や体調不良の場合は日時をずらし入浴している。一対一での会話や歌を歌ったりしながら、リラックスし、楽しみながら入浴出来るように工夫している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビをみたり、職員と会話したりしながら、本人のペースで休息・就寝出来るようにしている。不安がある場合は話をお聞きし、温かい飲み物を提供し、安心できるようにしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて、薬の目的や副作用、内服方法をしっかり確認している。薬の変更や副作用がわからない場合は、主治医や連携看護師に確認し、職員間で共有している。内服後の様子を記録に残し、主治医に情報を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の生活歴や会話に中、家族からの情報を得て、その方の楽しみや好きな事、習慣等を職員で共有している。ケアプランに取り入れる事で、毎日の生活の中で役割や楽しみ、生きがいに繋げる事が出来るよう努めている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握して、散歩やドライブ、買い物に行けるように努めている。誕生日には特別な日と題し、その方が希望するお出かけや外出に出向いている。四季折々のドライブや名所見学は、地域ボランティアの協力を得て行っている。今年度は、コロナウイルス感染予防の為、外出は控えている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を個人で管理してる方には、職員と一緒に買い物に行った際、支払いが行えるように支援している。現金を個人で管理している方ではないが、馴染みの財布を持つ事で安心されている方はいる。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に手紙を書かれる方については職員が本人に代わって郵便局へ行き、ポストに出している。ご家族が遠方の場合、手紙と一緒に、日常の様子を伝えている。電話の希望時には電話が出来るように支援している。事前に家族に状況を説明し、了承を得るようにしている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認識しやすいように場所を明示し、行動しやすくなっている。湿度計や温度計で確認して適切に過ごせるように努めている。職員も環境の一部である事を認識し、会話や生活音に配慮している。壁紙の装飾は、季節感のある物を入居者と共に作成し飾っている。また、入居者同士の関係性にも気を配り、居心地良く過ごせる工夫を行っている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの食席・ソファ・和室・自室と一人になれる空間を設け、入居者の状態や本人の生活リズムに合わせて空間を変え、気分転換を図っている。気心の合う同士が過ごせるように食席を変えたり、いつでも話しが出来るようにスペースづくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や小物、馴染みの生活用品やアルバムを持参して頂き、心地良く落ち着ける空間づくりを行っている。又、誕生日カードやご家族との写真、メッセージカードを飾り、家族との繋がっている事を感じながら、心地良く生活出来る工夫を行っている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の役割として食材の下処理、食後の後片付け、掃除、洗濯物たたみ等一人一人の出来る事を見極め、楽しみながら無理なく継続出来るように支援している。		